

【安城市】流域治水対策の取組事例 ～行政情報・地域情報等の発信に関する連携～

- ・ 安城市では流域治水対策として、水田貯留事業を推進しており、平成22年度から令和5年度末までに113haの農地で水田貯留施設の整備を行いました。
- ・ 令和6年度は学校給食を通して水田貯留事業のPRを行いました。

◆取組内容

令和6年11月19日の「愛知と安城を味わう学校給食の日」に水田貯留を実施している田んぼで収穫されたお米を提供し、水田貯留事業のPR活動を行いました。

安城市立桜井中学校では、営農者、市職員、JA職員が訪問し、生徒たちと一緒に給食を食べながら交流を図りました。

生徒たちからは、「田んぼってすごい」「いつもよりおいしく感じる」といった声が聞かれ、有意義なPRとなりました。

また、当日は地元のCATV(KATCH)も取材に訪れ、給食を楽しむ様子が放映されました。



▲安城市立桜井中学校での交流の様子
(中央は営農者の方)



「愛知と安城を味わう学校給食の日」とは、学校給食で地産産物を使用することで、地域の食への関心、より豊かな食生活を送ったり、生産者への感謝の気持ちを育んだりすることを目的として設定された日です。

そこで、19日(火)の「ごはん」には、安城市で積極的に行われている水田貯留(田んぼダム)の田んぼで収穫されたお米を使用しています。



『水田貯留(田んぼダム)』って何？

水田貯留(田んぼダム)とは……

みんなの住んでいる町を守る仕組みです。

大雨が降った時に……



川が氾濫して洪水が
起こるのを

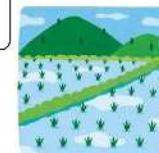


田んぼが
守る!!



どうして、田んぼで町を守ることができるの？

田んぼには、いろいろな機能があり、その中の一つに水をためる機能があるからです。



▲当日生徒たちに配布したチラシ